

実施日:5月19日

1. 中学3年間で身に着けるべき学習目標の達成に向けて教育内容の充実を図る。

昨年からの流れで小テスト・自習室・S L Cそれぞれの効果が出ており、自発的に学習する姿勢が強くなってきていることは大変良い傾向。また学習内容も生徒自身で考えているという好循環。一般的に「『勉強している』と周囲に思われたくない」と牽制し合う傾向があるものだが、普段から学習に取り組もうというムードができつつある、とのことなので、さらに広がっていくことを望む。

可能であればこの変化を進学実績、定期試験や小テストで及第点の取得者数変化、生徒や教員の声、S L C報告などの可視化を図ってはどうか。広報ツールとしても有効。検定試験の参加率向上が課題と聞いたが、検定の目的、意義や効能（大学受験に有効など）を再認識させることも必要。

2. S N Sの利用に関して細かな指導を行い、同時に保護者への協力を依頼する。

携帯電話教室の成果があったことは収穫であるが、大きな改善が見られない。なかば社会問題。毎年マナー改善を訴求し続けるしかないものの、自校他校の悪例を具体的に挙げる、生徒からの意見を募るなど、訴求内容を変えてみないとマナー改善運動もマンネリ化するのではないか。またマナーも大事だが、なるべく携帯電話を見ないようにすることや各自一日の携帯使用時間を計測して、改めて依存度を確認するのも一案。

3. 登下校時の安全とマナーの向上を図る。

挨拶の励行は各方面に好影響を与えるので引き続き強化すべき。登下校の車内マナーにも携帯電話が関与してくるので同時に指導していかななくてはいけない。地域住民との交流を深めることで、外部の味方を増やすのも苦情を減らすには有効かもしれない。生徒会によるあいさつ運動も実施できれば、そのこと自体が地域へのアピール（＝学校の味方・ファンを増やすこと）につながるだろう。